やっちゃ場

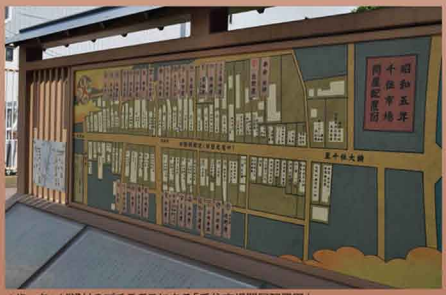
― 賑わう 東郊一の市場 ―

▲昭和はじめのやっちゃ場（昭和12年）

▲野菜の競売（昭和29年）

千住の市場は、卸売市場として発展してきました。とくに、野菜を扱う青物問屋が集中した千住河原町一帯は"やっちゃ場"と呼ばれました。街道沿いにしかれた石畳と重厚なつくりの問屋建築が特徴であり、取引金額や数量、敷地面積のどれをとっても東郊最大の規模と賑わいを誇りました。商品は競売（セリ）によって取引され、投師（なげし）と呼ばれる、仕入れた荷物をほかの市場で売る人たちが活躍しました。"やっちゃ場"の問屋の店先の様子は、郷土博物館で復元しています。現在、やっちゃ場の通りには、旧問屋の屋号や商売をあらわす看板やプチテラスがあり、往時の様子を伝えています。

▲清菜の出荷（昭和29年）



▲やっちゃば通りのプチテラスにある「千住市場問屋配置図」